

JABEE NEWS

創立10周年記念号

第9号

JABEE

世界標準の技術者育成 — 技術者教育の質保証 —

JABEEの更なる発展を目指して

JABEE 会長 木村 孟

JABEEを活用した技術者教育の実質化

JABEE 副会長 大中 逸雄

特別寄稿

「JABEE10年の節目にあたって」

教育の品質

JABEE 最高顧問 吉川 弘之

これまでと、これから

JABEE 顧問 大橋 秀雄

特別企画

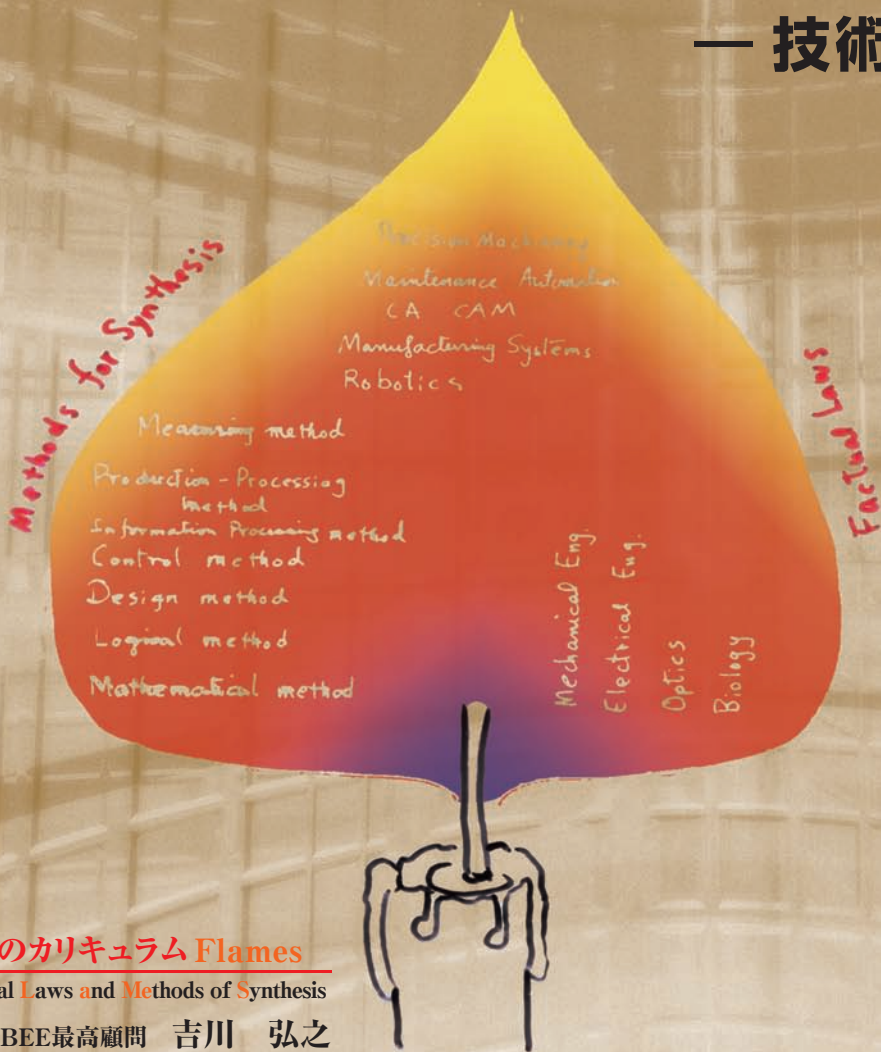
「技術士への道」

JABEEの企業認知度向上活動

大阪産業大学 赤井橋研一

JABEE認定プログラムの修了を経ての技術士

株式会社 ケー・シー・エス 崔 正秀



炎のカリキュラム Flames

Factual Laws and Methods of Synthesis

JABEE最高顧問 吉川 弘之

一般社団法人 日本技術者教育認定機構
Japan Accreditation Board for Engineering Education

JABEEの 更なる発展を目指して



文部科学省顧問
元東京工業大学学長
JABEE会長 **木村 孟** (きむら つとむ)

この度、大橋秀雄前会長の後を受け、会長を務めることになりました。何卒宜しく願い申し上げます。

早くもJABEE発足から10年が経ち、11月25日には、発足10周年を記念して、「報告と感謝の集い」を催すことになりました。私も、JABEE発足にある程度関与致しましたが、「よくここまで来たな」というのが正直な感想です。JABEEの創立に関った方々が、発足前、その必要性を真摯に訴え続けられたにも拘らず、時期尚早ではないかという声がかかりあったのは事実であります。しかしながら、国際的に見れば、一刻も早く立ち上げなければならない状況にあったことは間違いなく、そのような考えをお持ちの方々の方ならぬご努力によって、1999年の11月にそのスタートを切ることが出来ました。それを、先頭に立って引っ張られた方々の先見性と熱意にこの場をお借りして、心からの敬意を表する次第です。

JABEEは、2005年にはワシントン協定 (Washington Accord) に正式加盟が認められ、国際的にもその存在を確固たるものにしました。JABEEは発足以来2008年度までの9年間に、158教育機関の409プログラムを認定し、認定プログラムの修了生は95,000人の多くを数えています。今後とも、認定プログラムの数は間違いなく増加していくものと考えられますが、一つ大きな問題として関係者が憂慮しているのは、歴史のある伝統的な大学の認定申請が少ないことです。その理由として、有名大学が口にするのは、「MITⁱはABETⁱⁱの認定を受けようとしていない」という科白です。

昨年JSPSⁱⁱⁱとNSF^{iv}の共同シンポジウムがワシントンで開催され、私もそれに参加を致しました。その際、ABETの幹部の何人かに会う機会がありましたので、そのことについて聞いてみました。ABETはMITと何度か話し合いを持ち、「ABETはアメリカの工学教育の質だけを視野に入れているのではない。世界の国の工学教育のレベルを引き上げるために努力をしているのだ」という説明をしたところ、MITはそのことを良く理解し、ABET創立当初から申請をし認可されているという説明を受けました。World Bankはインドの工学教育のレベルアップのため、ここ10年間で1,000億円を投資しようとしています。そのfeasibility studyに当たり、工学教育については、日本を無視できないと言うことで、私はそのプロジェクトへの参加を要請されています。そのように、日本の工学教育は、世界的に見ても高いプレゼン

スを誇っています。日本の工学教育が様々な問題を抱えていることも事実ですが、日本が世界第二の工業国としての現在の地位を築くに当たって、工学教育が果たした役割は極めて大きいと言っても過言ではないと思います。我が国が真の知識基盤社会を形成するためには、更なる工学教育の進化が必須であります。JABEEはそれを大きな目標として、様々な試行錯誤を繰り返しています。歴史のある伝統的な大学の先生方におかれては、そのことをご理解いただき、特段のご協力をお願いしたいと存じます。

大学の認証評価が始まって5年、後2年で、1サイクルを終了します。認証評価は、平成10年の大学審議会の答申のサブタイトル「競争的環境の中で個性輝く大学」の育成を目指して始まったものですが、機関評価であるため、我が国の大学の全体的な質の向上には寄与しているものの、競争環境の醸成という点ではそれほど有効な手段ではありません。英国の例に見るごとく、これを醸成するには、分野別評価の実施が必須であります。この考え方は、中教審でも多くの委員によって表明されていますので、早晚、何らかの形で、分野別評価が始められると予想されます。工学分野については、これが出来るのは、JABEEしかなく、我々としては、今後この点を視野に入れてJABEEの更なる発展を目指しております。なお、JABEEは来年度から産業技術系専門職大学院の認証評価を行うために、現在文部科学省に対し認証評価機関となることについての申請を行っています。

9月21日、インドのニューデリーでメールを開けた私は目を疑いました。JABEEの大きな宝物であった福崎弘専務理事の訃報が報じられていたからです。しばし呆然として言葉も出ませんでした。福崎さんのJABEEに対するご貢献はまさに絶大なもので、私は、福崎さんが専務理事でいらっしやっただけからこそ、JABEEはここまで来ることが出来ただと確信しています。福崎さんは、JABEEが更に更に発展することを期待しておられると思います。私は会長として、その期待を裏切らないように全力を尽くす所存です。福崎さんのご冥福をお祈りいたします。

ⁱ MIT : Massachusetts Institute of Technology
(米国のマサチューセッツ工科大学)

ⁱⁱ ABET : Accreditation Board for Engineering and Technology
(米国における民間ベースの技術者教育認定会議)

ⁱⁱⁱ JSPS : Japan Society for the Promotion of Science
(独立行政法人 日本学術振興会)

^{iv} NSF : National Science Foundation (アメリカ国立科学財団)

JABEEを活用した 技術者教育の実質化



アイ・イー・ソリューション株式会社
代表取締役

JABEE副会長 大中 逸雄 (おおなか いつお)

10周年を迎えるにあたり、ご協力いただきました関係各位に心からお礼申し上げますと共に、更なる発展を目指しての取り組みについて紹介させていただきます。

JABEEの認定は、技術者教育の質向上と、その国際的同等性の確保を図り、国際的に通用する技術者の育成を通じて社会と産業の発展に寄与することを目的としています。教育機関はJABEEの認定を活用することで、目標を設定し、目標を達成するための教育プロセスや達成度評価法、改善ループを構築し、問題点を明らかにすることで継続的改善が可能になります。さらに、自己点検書や第三者による審査により、教育が可視化され、また、社会に対しての説明責任を果たすこととなります。国際的同等性は、JABEEが英語圏の国々のみならず、アジアの国々が加盟しつつあるワシントン協定の正会員となっていることや、建築設計・計画の分野では、UNESCO-UIAの認証機関となったことなどで担保しています。なお、JABEEの質保証は、目標を達成した学生のみを修了生とすることを要求しているため、単なるシステム保証ではなく、個人保証を含んでいます。

JABEEは上記のような目的・効果をより確実にするため、以下のような取り組みを行っています。

第1は技術者教育および改善の実質化です。現状の教育を単に認定審査用に説明して認定を受けるようでは、真の教育改善にはつながりません。認定のための認定ではなく、研究の場合と同様に、教育機関には社会や学生の期待のみならず、現状の教育が国際的水準に比較してどの程度の位置にあるのかを調査し、教育を実質的に改善していく努力が求められますし、審査においてもそれを奨励する配慮が必要です。この対応として、国内外での教育改善の良い例をより多くの関係者と共有するための広報活動と審査員研修に力を入れるとともに、日本工学教育協会など関連学協会とも連携していきたいと思えます。さらに、修士課程の認定も開始しましたが、まだその認定数は少なく、修士課程教育の改善への寄与があまりありません。しかし欧州では修士課程の認定もなされています。修士課程教育の改善とその国際的同等性の確保のためにも、修士課程の認定プログラムが増えるよう努力します。

第2は評価および学位の実質化です。学士課程の認定では技術士1次試験の免除に相応しい水準で学習目標を達成した学生のみを修了生とすることが要求されていますし、国際的に同等性を主張するためにも学位に相応しい水準での達成度が要求されていますが、本当に達成しているのかという疑問が出されています。また、単位を取得していれば、達成していることになるのではないのかという根強い意見があります。確かに、単なる知識教育であれば、筆記試験問題と答案をチェックした上で単位の

取得状況を審査すれば良いのですが、自己学習能力などについては、学生の態度や、成果物の評価など評価方法を工夫しなければ評価できません。このような工夫の努力なしに安易な評価方法に固執しているようでは教育の進歩や学位の実質化は極めて困難です。そこで、国内外での学習成果の評価方法の良い例をやはり広報活動や審査員研修などで広めていきたいと思えます。

第3は受審・審査の合理化です。学習目標の設定や達成度評価があいまいであった教育機関が初めて受審する場合には、ある程度の時間が取られるのは止むを得ませんが、必ずしも必要でない資料作成などに過剰な時間が取られているとすると問題です。現在、受審および審査に関連して、認定の目的を損なうことなく、どこまで合理化が可能かを検討しています。場合によっては、基準等も変更します。なお、合理化には審査費用の軽減も含まれます。このためABETなどのように複数プログラムの同時審査で審査員数を減らすことで、審査費用も減らす方向で努力しています。

第4はJABEEの認知度の向上です。教育改善に役だっただけでなく、「認定」を受けることが企業や社会から評価されれば、教育機関側での教育意欲も増加します。企業での認知度を上げるように広報活動をさらに充実させますが、教育機関側でも宣伝をお願いします。

第5は国際的同等性の確保です。ワシントン協定では、修了生に要求される知識・能力の参考となるGraduate Attributesを採択しました。現在、これを反映した基準の改定作業を行っています。国際的に通用する基準と教育および評価の実質化により、自信を持って、教育の国際的同等性を主張したいと思えます。

第6は技術者の地位向上です。近年の理工系分野への学生の人気凋落には歯止めがかかっていません。優れた素質の学生を集めることは非常に重要です。JABEE認定プログラムの修了生が、優れた技術士となり、社会で活躍することで、社会的に認められ、より優秀な若者がエンジニアの道を選択するという良い循環が早く実現できるよう、関係組織と連携して努力致します。

第7は国内外での認定制度への協力です。現在、技術に関連の深い専門職大学院の認証評価機関になるべく作業を進めています。また、近い将来、分野別評価が義務化されるようです。さらに、アジアでは認定に関してJABEEの経験から学びたいという希望もあります。これらの国内外での変化に適切に対応して参ります。

初心に戻り、上記を確実に実行して参りますが、関係各位のご協力が不可欠です。ご理解とご協力をお願いいたします。

特別寄稿 |

「JABEE

教育の品質

JABEEは、創立前の「国際的に通用するエンジニア教育検討委員会（日本工学教育協会）」から数えれば、12年が経過したことになり、感慨無量である。

私はOECDの科学技術政策委員会に日本代表として出席していたが、1990年ごろの会議で科学技術教育が話題となり、そこで「大学教育の品質管理」という報告書が配られ、それを見て驚愕したことを思い出す。そこには、日本の製造業の品質管理が紹介され、一定品質を維持するために成功した工場での方法が述べられている。他国の委員たちは別に驚いていない。しかし私には、機械を生産する工場と若者を育てる大学教育とが並置されていることに、大いに違和感を持った。教育とは、数値や統計で論じる物理量を相手にして計算で最適化するものでなく、もっと深遠な思想と精神的な信頼感とで深めていくものではないかというような考えがわき上がったのであった。

しかしその後、関連する報告などを読み進むうちにその違和感は次第に薄れていき、大学教育の品質管理という表現そのものは認めなければならないと思うようになった。それは教育とは極めて個人の資質に依存するものだが、一方社会的なものであるという当たり前のことに気付くことがきっかけであった。



独立行政法人 科学技術振興機構
研究開発戦略センター長
JABEE元会長（1999-2004）

JABEE最高顧問 吉川 弘之（よしかわ ひろゆき）

大学教育における教員の組織と役割分担、課程設計、教育方法、評価法と実施などについて、独自性を持って学科や専攻の教員が協議しつつ、そのうえで各教員が全力を傾けて行うのが大学教育であるとするのが教育の自治に基づく伝統的な教育観だったと思う。これは今でも正しい。

しかし一方で、その教育を受けた若者たちが全員で次の世代の社会を作るという点を考えるとき、教育は社会的な行為であり、多くの教員たちとの協力で若者の資質形成に貢献しているのだという現実気付く。したがって教育は大学内、大学間で開かれて行われる対話の対象であり、そのために必要な共通言語として教育の品質を表す概念が必要である。それは工場の品質と内容的には関係はないが、領域を超えた一般性を持つものとして公的なものである必要がある。JABEEはそれを着実に作ってきた。

最近の日中韓の首脳会議で高等教育の協力が合意されたが、その推進のためには教育のための共通言語が不可欠である。多くの難関を越えて成し遂げられた努力を通じて得た国内、国際に及ぶ成果によって、JABEEに改めて新しい活躍の場が与えられたと思われる。これからも発展することを心から期待する。

10年の節目にあたって」

本年4月1日、永年の懸案であった一般社団法人化を果たした日本技術者教育認定機構（JABEE）は11月で創立10周年を迎えました。この10年と言う「節目」にあたって、創立以来JABEEの発展にご尽力いただいた吉川弘之元会長、並びに大橋秀雄前会長に特別寄稿をお願いしました。

JABEE創立からの「あゆみ」をご理解いただき、次の時代に向けて更なるご協力を賜るようお願い申し上げます。

これまでと、これから



学校法人工学院大学理事長
JABEE前会長（2005-2008）
JABEE顧問 **大橋 秀雄**（おおはし ひでお）

本年6月京都国際会議場で開かれたIEM 2009は、ワシントン協定やAPECエンジニアなど、教育や資格にかかわる六つの相互承認協定に加盟する団体が隔年に開く総会である。晩餐会の挨拶で、私はワシントン協定成立20周年のお祝いを述べたあと、JABEEは今年10周年だと紹介したら、参加者一同から盛大な拍手をいただいた。ワシントン協定の加盟団体では、77才のABETが最年長であるが、JABEEはアジア勢の先頭に立つ中堅組織になったことを痛感した。

1999年創立の翌年に認定試行、2001年度から正式認定を開始し、いま9度目の認定審査が進行中である。認定基準を始めとして、審査手続きにも絶え間ない改善が進められ、その間JABEEや学協会など、審査サイドに立った関係者のご尽力には頭が下がる思いがする。またJABEEの意義をご理解いただき、高い意欲で審査の壁を突破していただいた大学側の教員や学生諸君にも、感謝の気持ちで一杯である。産学官協力して歴史を築いていただき、有り難うございました。

JABEEの源流は、1995年に日本工学会が出した「大学の工学教育プログラム評価の必要性について」という提言まで遡ることができる。大学の評価は、機関評価とプログラム評価が縦糸と横糸のように補完しあって完結するという、アメリカを始めとする先例に倣うものだった。4年にわたる準備のすえに始まったJABEE認定は、広くいえば

プログラム認定、専門職の観点に立てばプロフェッショナル認定であることは最初から揺るがなかった。

2004年から始まった大学の認証評価は、すべての大学を対象とする機関評価と、専門職大学院を対象とする専門分野別評価に分かれ、文部科学省の統括のもとで義務化された制度となった。3年先行したJABEE認定は、プログラム評価と自主的という二点で、国の制度とは独立した質保証制度として機能してきた。二つの制度が並立してすでに数年が経過した。この間、評価の対応に追われる大学の教員側から、負担を軽減して欲しいという要望が高まっている。

JABEE認定は、個別の教育プログラムを評価対象とする特色に加え、プロフェッショナル認定としての価値を重視している。国際舞台でEngineerと称するためには、それにふさわしい基礎教育を終えていることが求められる。JABEE認定は、まさにその「ふさわしさ」を国際的に保証するもので、認証評価では果たし得ない役割を担っている。昨年薬学教育評価機構が創立され、プロフェッショナル認定が広まる機運が強まってきた。

JABEE10年の歴史をふまえて私が望むことは、わが国の大学評価システムが、すでに義務化された認証評価と、実績を重ねてきたプログラム／プロフェッショナル評価が相補って、総体として効果的で効率的なシステムに成熟することである。

■技術士への道

JABEEの 企業認知度向上活動

1963年日立製作所に入社、新幹線用電動機などの設計開発に従事し、当時世界トップレベルの「車両用電動機高耐熱C種絶縁システム」の技術開発の成功と共に、小型軽量化と長寿命化を武器に世界の車両用電動機シェアを塗り替えてきた。さらに、1980年前後約7年間インド・中国・ブラジル・豪州・南ア等で技術者教育、現地工場の生産性改善、国産化比率の向上に従事してきた。このときの名刺は、社内職位「技師」を英訳し「Engineer」と自称してきたが、日本の職場と比べ大変過大な処遇を受け驚いたことがある。公的資格「Chartered Engineer」と自己流英訳「Engineer」の違いを認識したのは大分経ってからのことで、2003年の退職を境に、技術士（電気電子、総合）、APECエンジニア、EMF国際エンジニアの資格を取得・登録する事が出来た。

【大阪産業大学でのJABEE認定取得支援活動】

退職後の社会貢献として、学生の技術者教育と30～40代若手技術者の国際資格取得を支援しようと、2004年大阪産業大学都市創造工学科JABEEプロジェクトに加えて頂き、PDCAのスパイラルアップ改善が出来るシステム構築支援を行い、2006年にJABEE認定を頂く事が出来た。新システム立上げ時に起こりがちな混乱・拒絶等は、JABEEの目的に共鳴した教員・事務職員の情熱と献身で乗り切る事が出来た。教育改善にチャレンジする大学の取組には大変感銘をうけた。

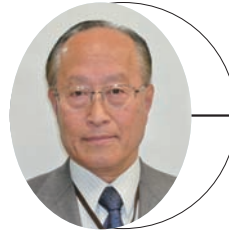
【企業のJABEE認知度向上活動】

JABEE受審校講習会等で、企業側認知度が低いと訴える参加者の声がよく聞かれる。PDCAを回すには、企業がJABEE修了生を積極的に採用し、プログラム側へ改善要望フィードバックを行うなど双方向の会話が不可欠である。

企業におけるJABEE認定プログラム修了生のIPD（初期専門能力開発）は、所属組織の教育部門（或いは技術士会等）と、配属先の指導技術者が行う事になっているが、次のことがボトルネックとなっていた。

- ①企業指導技術者層へのJABEE情報伝達不足
- ②組織的指導・フィードバック体制未確立

そのため、出身会社各事業所の第一線指導技術者層にJABEEの活動内容を伝えようと、日立技術士会総務委



大阪産業大学学長事務室・教学改革（JABEE担当）
技術士（電気電子部門／総合技術監理部門）
赤井橋 研一（あかいはし けんいち）

員会に加えて頂き、委員会の活動と並行してJABEEの啓発活動を開始した。

【日立技術士会における技術士増員活動】

日立グループは優秀な社員の育成、特に技術士・APECエンジニア・EMF国際エンジニア育成に積極的な技術者集団で、その技術士会は日立製作所・関連会社の現役・OB技術士（808名、H21／9時点）で構成され、会員相互の研鑽と後輩の指導を主な目的とし、総務・企画・広報の3委員会構成され、下記活動方針を掲げ、グループ内企業と相互研修会を開いている。

- ① グループ会社の技術士会立上げと技術士増員
- ② 「技術士受験対策講座」による資格取得支援
- ③ JABEE活動報告

演題：「変貌する大学の技術者教育」

私は、③のJABEEを担当し、2006年より各事業所、グループ会社を訪問し、第一線で生産活動に従事する技術者の参加を得て、「JABEE技術者教育プログラム」とシステムの狙いについて相互研修会を実施してきた。JABEE修了生の積極的採用、企業内修習技術者教育、プログラム側への積極的な改善提案などを訴えてきた。

- ・2006.4 日立システム九州
- ・2006.11 日立工場（原子力事業部）
- ・2007.6 日立マクセル（京都事業所）
- ・2008.10 日立金属安来工場

【まとめ】

2009.4 大学JABEE支援、審査員としての教育改善、日立並びにグループ会社へのJABEE啓発活動等に対し、「日立技術士会賞」をいただいた。日立のJABEEに関する表彰はこれが初めてである。かつ日立技術士会は、2009年度より「技術士会会員資格をJABEE修了生まで拡大」し、JABEE修了生への高度技術者教育に本腰を入れてきた。

グループ会社の技術士会結成の動きも活発化し、なかにはJABEE修習技術者に対し、組織的に個別指導員を決め実施しているところもでてきた。この草の根的活動は、JABEEおよびプログラム側が積極的に働きかけないと、全企業へ広がらない。同志と共に、今後とも、頑張った活動を継続してゆこうと考えている。

■技術士への道

JABEE認定プログラムの 修了を経ての技術士

私は、土木および土木関連分野で最初にJABEEのプログラム認定（以下、JABEEと記す）を受けた立命館大学理工学部土木工学科を2002年度に卒業し、埼玉大学大学院理工学研究科建設工学専攻の博士前期課程を経て、現在は建設コンサルタントである株式会社ケー・シー・エスに所属しています。就職後、技術士補として登録を行い、指導技術士の下での実務経験の条件で技術士第二次試験を受験し、幸い早い段階で技術士第二次試験に合格し、技術士（建設部門）となることができました。今後、数多くのJABEE修了生が技術士第二次試験を受験することに鑑みて、本稿では短いながらも合格までの経緯や心構えを中心にお話したいと思います。

私にとって立命館大学時代のJABEEにより、専門的技術力に加えて、「物事の流れを読む力」や「物事を構想する力」の重要性を認識・習得できたことは非常に有意義でした。世の中の事柄には全てに通じて「流れ」があり、その「流れ」の中で物事を動かしていくには、まずはその「流れ」を的確に把握することが重要となります。また、物事を動かすためには「流れ」を創り出す必要があります。創造力・マネジメント力をもって構想を行う



株式会社 ケー・シー・エス
社会政策部九州グループ
技術士（建設部門）
崔 正秀（さい まさひで）

平成15年3月
立命館大学理工学部
土木工学科（2002年度認定）卒業

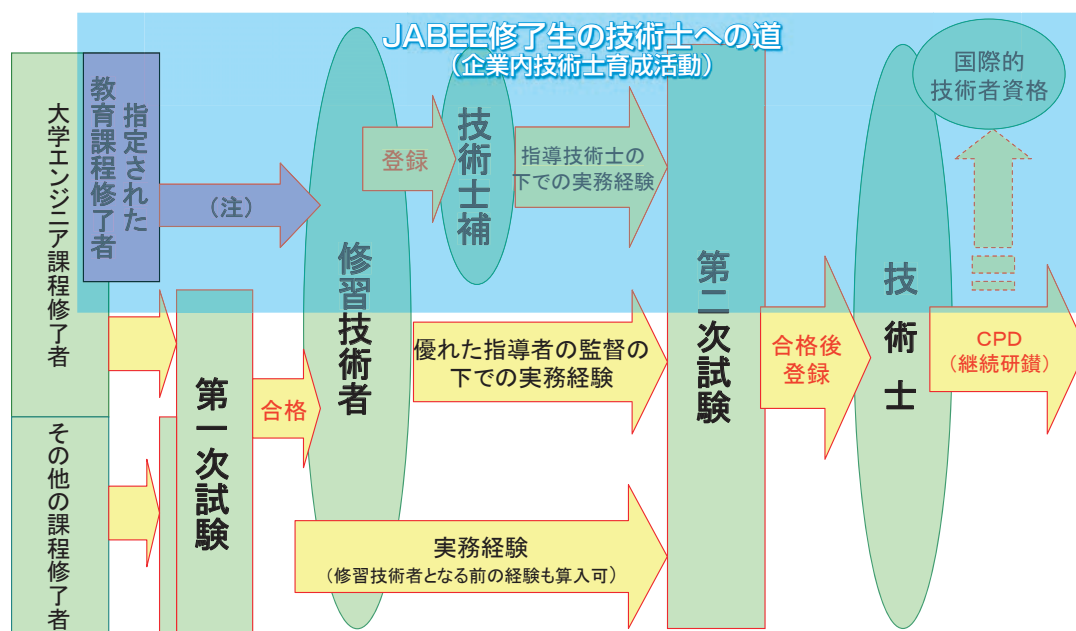
必要があります。JABEEにより認識・習得できた技術は、技術者として自立するために必要な技術習得の「きっかけ」となりました。

大学卒業後、他大学のマスターコースに進学した時も、現在の職場に就職した時も、JABEEにより「きっかけ」をつかんでいた私は「物事の流れを読む力」や「物事を構想する力」の研鑽に励みました。それは「流れ＝フロー」を描く技術が必要な技術者唯一の国家資格である技術士にも直結することになります。JABEE修了後も、高い意識を保って技術力向上を図っていけば、結果的に、技術士を満足する技術を身につけられると思います。

JABEEを受け身で履修するだけでは、技術士取得までの道のりが楽になることはありません。ただ、JABEEの履修により、今後必要な技術を学ぶ「きっかけ」を半ば必然的に与えてくれるのです。後は、その「きっかけ」を活かして、自らの意志でそのスキルを磨いていく。この姿勢を早期に見つけることができることこそがJABEEを履修する最大のメリットだと思います。

JABEE修了生の技術士が数多く輩出されることを期待しています。修了生の皆様、頑張ってください。

技術士試験に関する基本的な仕組み



(注)「指定された教育課程修了者」とは、文部科学大臣が指定した課程を修了した者のことです。指定された教育課程は日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定プログラムが該当します。

2007年度までの認定プログラムについての文部科学大臣指定が告示される

JABEE認定プログラムの修了生は文部科学大臣の指定を受けることにより技術士の第一次試験が免除されることとなっています。2007年度までの全認定プログラムについての指定が、文部科学省告示第153号とし平成21年8月10日付け官報（号外第167号）に告示されました。

告示された各プログラムにはプログラム毎に定められた修了年月があります。当該認定プログラムをこの修了年月以降に修了したものはその時点から「修習技術者」となり、必要な経験を積んだ後に技術士第二次試験を受験することが出来ます。また、第二次試験合格後は登録を行う

ことで技術士資格を得ることが出来ます。

JABEE認定プログラムと技術士制度との関連、並びに今回指定された2007年度までの全認定プログラム名はJABEEホームページ<http://www.jabee.org/OpenHomePage/gijutsushi.htm>をご参照下さい。

IEA総会・ソウル協定会議

2009年6月14日から19日まで、京都国際会館にて、IEM 2009 Kyotoが開催されました。IEM (International Engineering Meetings) はIEA (International Engineering Alliance) が2年に一度開催する国際会議であり、今回は25カ国、約120名が、ワシントン協定会議をはじめ、教育とモビリティ合同会議、教育フォーラムに参加しました。

ワシントン協定会議では、現在、JABEEをはじめ、欧米諸国・アジア諸国等、世界の12団体が加盟していますが、今回マレーシアの加盟が承認され、13団体となりました。次回は、IEA Workshopが2010年6月にカナダにて、IEMが2011年6月に台湾で行なわれます。

また今回の会議に合わせて、6月20日には第2回ソウル協定会議が開催されました。ソウル協定は、2008年12月6日に、韓国・日本・米国・オーストラリア・カナダ・英国のコンピューティングおよびIT関連分野の

認定機関6団体によって設立され、今回香港・台湾の2国・地域の認定団体の加盟が承認されました。次回のソウル協定会議は2011年6月のIEM2011に合わせて台湾で開催される予定です。



平成21年度JABEE審査員研修会開催



当該年度の審査を担当する審査長や審査員、並びに翌年以降に審査

員となられるオブザーバを対象にJABEEが毎年開催している審査員研修会が今年も8月に2回開催されました。本年度は架空プログラムによる模擬審査を行うグループワークを含む2日間コースと基準の解説や審査書類の記入方法などの解説を行う半日コースと2つのコースをそれぞれ1回ずつ開催した結果、合計で

238名の審査長、審査員およびオブザーバが参加しました。

特に、2日間コースは1日目の講義とグループワークが夜9時まで行われ、翌日も午後3時半まで熱心な討議と質疑が行われました。

なお、今回の参加者のうち産業界からの参加者は約28パーセント、66名でした。

編集後記

11月の記念小宴に向けての10周年記念号をまとめ、3代の会長と現副会長のご挨拶をいただきました。その中ではこれまでの多くの方々のご努力と成果がたたえられるとともに、さらなる発展を目指した努力の目標も頂戴いたしました。また、企

業内での精力的なJABEE認知活動の記録、JABEE修了生初の技術士誕生という嬉しいお知らせも載せることができました。日本の技術者教育の進展とともにあるJABEEを感じていただければ幸いです。(KK)

表紙のデザイン

炎のカリキュラムFlames

原画：JABEE最高顧問吉川弘之
炎の右側には事実知識としてのFactual Laws(機械、電気、光学、生物学)、左側には基本的な法則としてMethods of Synthesis(数学、理論、デザイン、マニファクチャリング)を配している。デザイン・製造を出発点として、そのために必要な知識として理論を学ぶという逆転の技術者教育を示唆している。